

平成30年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

平成31年2月21日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）	
個 の 考 え を 生 か し、 主 体 的 協 働 的 な 学 習 を 基 盤 と し た 確 かな 学 力 を 育 成 す る。	自ら学ぶ意欲の向上	A	B	・授業づくりでは、各教科で取り組みを工夫することができた。 ・家庭学習の定着が進まないことが長年の課題となっている。課題の量やレベルを工夫してみたが、今後も様子を注視する必要がある。	A	・体育や音楽は生徒がいきいきと活動し、座学は真剣に話を聞く姿を見られた。 ・個性が尊重され集団との両立が困難な風潮の中、よく挑戦している	・課題量を減らすだけでなく、各教科バランスとポイントを絞る。 ・どのような学習をしているのかを保護者に周知し、家庭に協力を求めながら家庭学習の定着を図る	
	個に応じた指導・支援	B						・生徒一人一人の理解度や習熟度を把握し、家庭学習の充実と学習習慣の定着を図る。
生 徒 主 体 で、 思 い や り が あ り、 活 力 の あ る 学 校 ・ 学 級 づ く り に 努 める。	教育相談活動の充実	B	B	・不登校傾向を発見してからの対応は早くなったが、教師がつかむより、保護者からの相談の方が多いと感ずる。 ・生活委員を中心に全校活動でもあいさつ運動を実施し、あいさつの輪が広がった。 ・生徒総会で思いやりについて考え、思いやり郵便という全校活動を行い、思いやりを見える形で伝え合うことができた。教師主導になる場面もあった。 ・総合的な学習を見通しをもって進め、将来の自分や進路を考えることができた。自己決定の場面で、自分の意志を示せないことがある。	B	・思いがけないことが原因で不登校になることがある。担任だけでなく不登校の原因分析を進める必要あり。 ・アンケートや対話を大切に。 ・大きな声を出せない生徒が増えていると感じる。 ・交換日記など夢を語り合える機会を作る。 ・将来の夢につき、色々な可能性があるということを学ぶ授業が大切である。	・指導は、生徒の話をよく聞き、そのうえで問いかけるアプローチを大切に。 ・校歌を式典でも合唱形式で歌う方法を検討し、全校で校歌を愛唱する意欲を高める。 ・定期的に「思いやりアンケート」を行い、その結果に基づき全校活動を計画する。行事の内容を検討し、時間や内容にゆとりをもたせ生徒主体で進める部分を増やす。 ・学校生活全体を通して、生徒が自身で考え自己決定できるよう、教師は見守ったりそのような場面を意図的に設定したりする。	
	挨拶の声や歌声が響く学校づくり	B						・元気で明るい挨拶ができ誇りをもって校歌が歌える生徒を育てる。
	どの子にも居場所と活躍の場のある集団づくり	B						・生徒主体で思いやりがある学級活動、生徒会活動を推進する。 ・生徒の活力がみなぎり、成就感や感動を味わうことのできる行事や部活動の運営に努める。
	生き方教育の推進	B						・自分の将来や生き方を考え、その夢の実現のため、自分で自分を決定する力を育む。
地 域 と 協 働 し、 家 庭 ・ 地 域 及 び 小 学 校 と の 絆 を 深 め る。	家庭連携の推進	B	B	・参加ボランティアの方に精力的に協力していたが、活動情報が、十分周知されていない。 ・働く人に学ぶ会や本陣まつりなど、地域の一員として自覚をもち、自分のできることを実践していると感ずる。	B	・体育館の壁に校訓を書くことで、地域のシンボルとなり一体感が生まれる。 ・親がボランティアを知らないことが多い。広報活動推進を。	・ボランティア活動を、入学式や学校説明会を通し積極的に呼びかける。 ・地域教育ボランティアの活動日は、まず教師に周知し、生徒が感謝の気持ちをもって行動するよう朝の打合せで担当者が連絡する体制をつくる。	
	ESD活動の推進	B						・地域に学び、総合的な学習の成果を地域に発信するなど、自分から行動を起こす力を育む。
教 育 公 務 員 と し て の 自 覚 を 高 め、 信 頼 さ れ る 教 師 集 団 を 目 ざ す。	教師の人間力や授業力の向上	A	B	・学年間や教員間で連携を図り、よりよい授業づくりのために協力することができた。しかし、授業案の自主検討会で人が集まらず、問題解決的な学習の追及が進まなかった。 ・特活的な行事が多く、一部の先生に負担が集中した。サポートし合える教職員集団の体制づくりを進めたい。生徒指導・生活サポートは、ともに情報が綿密でよい。	A	・子ども達の間性向上は、家庭がするものという意識を醸成する活動を展開するとよい。 ・よく努力していると思う。継続的な活躍を期待している。 ・情報共有は大切である。 ・会議を精選して、多忙化解消を進めたい。	・現研で授業案検討を設定し皆で考えるとともに、授業を見合う週間をきっかけに授業参観と公開をして学び合う。 ・職員の負担均等をめざし、より適材適所の校務分掌を設定しチームづくりを推進する。 ・情報交換会は、特に変化があった生徒や、全体で共有しなくてはいけない情報を精選し、会議時間短縮と多忙化解消を進める。	
	風通しのよい職場づくり	B						・多忙化解消に努め、互いに助け合いサポートし合える教職員のチームづくりを進める。 ・生徒情報など共有を図り、担任を中心に組織で対応する。

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】